未経験エンジニア採用を行う企業が未経験者に期待することは何か。また、期待できる人物であると判断するポイントは何か。

＜解答＞

　未経験エンジニア採用を行う企業が未経験者に期待することは、

「早期退職しない(長期勤務できる）」、「会社に利益を生み出してくれる」

の２点あり、期待できる人物だと判断するポイントは、

1. 自走力があるか
2. 自責思考があるか
3. 人間性が良いか
4. 明確な未来像（Will：明確な目標）があるか

の４点がある。

IT業界への未経験からの転職は、高い専門知識が求められ、早期転職のリスクからリターンが見込みづらいと判断されるため難しい状況である。一方で、経験者の有効求人倍率は7.65倍と高く、働き手は企業を選択できる立場にあることから、早期退職者数が多くなっている。そのため経験者を採用しても利益（リターン）が少なく、採用が企業の成長に繋がっていない企業が増えている。

　そこで最近企業側では、 “早期退職“せず、長期勤務して貰え、”会社に利益（リターン）を生み出してくれる」未経験人材を採用する動きが始まっている。

　“早期退職しない”、“会社に利益を生み出してくれる”人材であると判断するポイントの１つは、まずは「自走力があるか」である。ITエンジニアには、「何が問題かを定義する力」「問題の原因を分析する力」「解決策を選定する力」「解決策を実行する力」「実行結果を検証する力」が求められ、主体的かつ自発的に思考や行動ができる「自走力」が必要となる。未経験エンジニアにはこれらの力はまだ身についていないため、「分からないなりにも調べる」「調べたことを言語化する」「相談する」といった行動が求められる。

　2つ目のポイントは「自責思考があるか」である。自責思考とは、「物事がうまく行かない時に「その原因は自分にある」と考える思考」のことである。前職の退職理由に「上司からのパワハラ」や「同僚からのいじめ」等の「他責思考」による理由を挙げると、企業側に「他人の責任にする人だ」と、マイナスの印象を抱かれる。

　3つ目のポイントは「人間性が良いか」である。前向きさ、ひたむきさ、謙虚な姿勢、向上心とそれに伴った行動を備えることは、早期退職しないことを判断する上で重要なポイントである。仕事で上手くいかないことを他人のせいにする等、ネガティブな思考・行動は退職直前の社員の特徴であり、そのような人材は早期退職のリスクがあるため、企業側は採用したいと考えない。

　4つ目のポイントは、「明確な未来像（Will：明確な目標）があるか」である。上記で述べた働く上で発生するネガティブな思考・行動は「ポジティブな感情」を持つことで乗り越えることができる。「ポジティブな感情」とは、将来どういう自分になりたいかという明確な未来像（目標）に起因して醸成され、「明確な未来像を実現するために辛いことでも乗り越えることができる」という意識を生み出すことに繋がり、早期退職されず企業に利益をもたらすことに繋がる。

　以上から、①自走力があるか、②自責思考があるか、③人間性が良いか、④明確な未来像（Will：明確な目標）があるかの４点を基準に、「早期退職しない」「会社に利益を生み出してくれる」未経験者を企業側は判断している。

（参考資料）

・「キャリアサポートガイダンス」動画

・面接で「転職のきっかけ」を聞かれた時の答え方。「自責思考」が大切

https://tech-camp.in/note/careerchange/77338/#i

事業会社、受託会社、及びSESそれぞれについて、エンジニアとして入社した場合のメリット、デメリットを説明してください

＜解答＞

　まず、事業会社、受託会社、及びSESそれぞれのメリット・デメリットを述べる前提知識として、事業会社、受託会社、SESの概要を以下に示す。

・事業会社

　他企業の依頼を受託しWeb制作物を納品することで収益を得ている受託会社とは異なり、「自社でWebサービス、Webメディアを運営し収益を得ている会社」を意味する。

・受託会社

　顧客が利用・販売する製品の開発を請け負う企業を意味する。特に、顧客企業が業務の遂行に利用する情報システムや業務用ソフトウェアなどの開発を受注する。

・SES（System Engineering Service）

　システムやソフトウェアの開発・運用などで行われる委託契約の一種で、特定の業務への技術者の労働の提供を行う契約を意味する。提供元企業の従業員が客先に常駐して技術的なサービスを提供する。

　次に、自身のITエンジニアとしての成長方針について述べる。私は今回、DMM WEBCAMPを通じて、前職からすると「異業種かつ異職種」への転職を進めようとしている。一般的にどの業種・職種においても、「異業種かつ異職種」への転職は難しいとされている。さらに、IT業界はその専門性および早期退職のリスクから、未経験で就職することは難しいとされている（応募可能な求人割合は8%）。

　一方で、一部企業の未経験者採用への方針転換を受け、未経験者でも「長期勤務」を前提として、IT業界への就職の間口が広がってきている。そのような中、今後自身がエンジニアとして働き、成長していく方法としては、「未経験者採用をしている会社で2〜3年以上働き、スキルを身につけた上で、スキルアップやキャリアアップが可能な会社に転職する」ことが考えられる。

　以上をふまえ、エンジニアとして入社した場合のメリット・デメリットについて、分類別に以下に示す。

・事業会社

＜メリット＞

- 自社サービスを開発することから、企画に踏み込む（意見を反映する）ことができる。そのため、自身の思いを開発に乗せる機会に恵まれる可能性があり、次の転職時に自身の企画力や発想力をアピールできる企業へ転職できる可能性がある。

- 受託会社に比べると納期に追われることが少なく、ある程度の開発の遅れが許容される可能性がある。そのため、システムへの導入に要する時間が見積もりづらい新技術に挑戦しやすくなり、スキルの向上に繋がる可能性がある。

＜デメリット＞

- 自社開発で大企業になると、部署の細分化によって携わる仕事の範囲が限られてしまう可能性があり、幅広い技術スタックが培われない可能性がある。

- BtoCサービスを提供している企業が多く、多数のユーザーを抱える有名なサービスの開発に関わるチャンスがあり、自身の仕事に誇りを持てる。

・受託会社

＜メリット＞

- 案件が豊富な上、上流工程（想像しうるサービスを0から生み出す工程）に携わることができ、スキルと実績を持って、技術力の高さを売りに次の転職に望むことができる。

- 複数の企業との取引により人脈を広げることができ、人脈を活用してステップアップのため他社に転職できる可能性がある。

＜デメリット＞

- 顧客の要望に縛られる機会が増え、納期が短く、自身のスキルが追いつかないために、次の転職に向けた着実なスキルアップができない場合がある。

- 二次受け（元請けの下請け）については、元請けが請け負った案件の下層フェーズのみを依頼される可能性があり、作業内容が簡単なものになってしまうため、あまりスキルアップできない可能性がある。

・SES

＜メリット＞

- 案件が豊富な上、上流工程（想像しうるサービスを0から生み出す工程）に携わることができ、スキルと実績を持って、技術力の高さを売りに次の転職に望むことができる。また受託会社に比べると、種々の開発案件に携わることができるため、自身の技術スタックの幅が広がり、対応できる仕事が多いことを転職時にアピールできる。

- クライアントの企業に常駐して仕事を行うため、常駐先で人脈を作ることができ、その人脈を活用してステップアップのため他社に転職できる可能性がある。

＜デメリット＞

- 企業を渡り歩くため、職場環境の変化が大きく、自身の（精神的な）負担となることが多い。

- 職場が転々と変わりやすいので、自身の所属する会社への帰属意識が薄れ、愛着が湧きにくく、自身のモチベーションを保つことが難しい。

（参考資料）

・「キャリアサポートガイダンス」動画

・【徹底比較】受託開発vs自社開発！それぞれ違いやメリットデメリット、身につくスキルを紹介します。

https://www.geekly.co.jp/column/cat-technology/1908\_008/

・SES契約とは？メリット・デメリットを徹底解説します！

https://www.geekly.co.jp/column/cat-preparation/1903\_049/

・全て解説します！SES企業って実際どうなの？

https://codelearn.jp/articles/what-about-ses-companies#2641032076394431239412425SES123911247312461125231245012483125031236412458124731247312513

・自社開発のメリットデメリット５つ|自社開発に転職する方法とは？

<https://www.sejuku.net/blog/118211>

・SESのメリットとは？メリット面7つとデメリット4つ

<https://www.sejuku.net/blog/120933>

・【新卒向け記事】自社？受託？SES？ITエンジニアの働き方について

https://www.wantedly.com/companies/company\_8204706/post\_articles/318270

・エンジニアで「受託開発から自社開発に転職したい！」際の、転職成功に向けて注意するポイントは？

https://min-ten.com/guide/guide\_2604/?amp#sect-5

不況下においてIT業界はどのような影響を受けると考えられるか説明してください

＜解答＞

　IT業界は不況の影響を受けるが、その影響は「インフラ」関連の業務や、AI（人工知能）、Webフロントといった「開発」関連業務等、業務分野によって異なると考えられる。以下にその理由を述べる。

　コロナ以前から、世界は第４次産業革命の時代を迎えている。第４次産業革命とは、IoT（Internet of Things）・ビッグデータ・AI等の技術革新を意味する。第１次産業革命から第３次産業革命までが、「工場の機械化」、「電力を用いた大量生産」や「電子工学や情報技術を用いたオートメーション化」等の"ハード面の技術革新"であった一方で、第４次産業革命はインターネットによって様々なモノが繋がる"ソフト面の技術革新"と言える。あらゆる分野で今後IT技術が必要となることが予想される。

　そのような世界的な潮流の中で、我が国もIT業界の拡大に舵を切っている。特に我が国は資源が乏しく、スマートフォンに使われる「レアメタル」のような、世界的に需要のある資源が採掘できる状況ではない。資源の乏しい我が国がGDPを維持・成長させるためには、資源に頼らなくとも済むIT業界の拡大が急務である。

　以上より、我が国のIT業界の需要は今後拡大し続けるものと考えられる。みずほ情報総研株式会社による調査レポートにおいても、2030年時点でのIT人材の需要と供給の差（受給ギャップ）は16〜79万人に上ると試算されている。またAI人材についても、2030年時点での受給ギャップが1.2〜12.4万人になると試算されている。

「業務のIT化」といった開発業務の目的は、システムの導入により作業効率を上げ、結果として人件費を削減し、企業の利益率を高めることである。それは、企業の基幹業務で生まれた利益をIT化という投資に費やすため、実現できるものである。

　我が国のIT業界の需要が拡大する中でも、不景気時には各企業はIT投資を控えるため開発業務が少なくなり、開発エンジニアの需要が減少する。一方で、基幹システムは維持し続ける必要があるため、インフラエンジニアの需要は増加する。実際に一昨年からのコロナウイルスの感染拡大で、IT業界の開発業務（SESや小規模なフリーランス事業者等）は不況の影響を受けている。

今後のIoTの進展、デジタルトランスフォーメーション（DX）の促進等の傾向もふまえると、コロナウイルスの感染拡大による不況で分野によって多少の需要変動が発生しているが、今後のワクチン摂取の普及および感染状況の収束に合わせて、開発エンジニアの需要は緩やかに増加していくものと考えられる。

（参考資料）

・「キャリアサポートガイダンス」動画

・「キャリアシング」動画

・日本経済2016-2017（内閣府）

https://www5.cao.go.jp/keizai3/2016/0117nk/n16\_2\_1.html

・平成30年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（IT人材等育成支援のための調査分析事業）　- IT人材需給に関する調査 - 調査報告書（2019.3みずほ情報総研株式会社）

<https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf>

・インフラエンジニアと開発エンジニア（SE）の違いを徹底比較！

https://www.sejuku.net/blog/126654